

## 茨戸川緑地

たなか よう

札幌市北区あいの里の北部に位置する「茨戸川緑地」が私の探鳥地です。都市緑地として種別され、面積約 124,000 平方メートルの広さで茨戸川と北海道教育大学札幌校に挟まれた場所にある緑多き土地です。

私が最初に訪れたのは 2005 年の初夏。附近の真勲別や生振、そして美登江の草原の鳥を探索中に偶然見つけた所でした。（偶然見つけたものにはイイ物があるが私の勝手な持論です。）当初は看板もなく、ここ数年位の間公園ゴルフ場オープンや市民植樹などが開催され散策路が造られました。都市緑地ということで札幌市の指定管理者制度等により、「あいの里公園」と、この「茨戸川緑地」を一つとみなし同じ造園業者が維持管理し、管理事務所を設置しています。今年 8 月に 3 つ目になるパークゴルフ C コースもオープンとの事です。環境に配慮した開発らしいのですが…。



茨戸川緑地周辺地図

さて、メインであります鳥のお話に入ります。生振大橋のたもとを石狩川方向へ入りパークゴルフ場を過ぎ緑地帯となります散策路を進み、篠路町拓北の住所となり、この両側が鳥さんたちのお出まし場所となります。草原の鳥と一部の水辺の鳥たち（両側が川）が迎えてくれます。アオサギやチュウヒ、トビ、少ない頻度でオオワシ、オジロワシなど猛禽類と、冬季はキンクロハジロ、ミコアイサ、ハシビロガモ、マガモ、ヒドリガモ、たまにオオバンなども見られます。近年釣り人が多くまた開発整備等も進み、水鳥も年々減少傾向である様な感じがします。

基本的には夏の草原性（一部雑木林もあり）の探鳥となります。鳥種は、コヨシキリ、ホオアカ、ノビタキ、オオジュリン、アカゲラ、カッコウ等と、ウグイス、ツツドリ、キジバト、時々ベニマシコ。その年にもよりますが、アリスイやオオヨシキリ、エゾセンニュウ、センダイムシクイも出現します。珍しくノゴマが現れる年もありました。一番良く見られる

ノビタキはやはり営巣数が多いらしく、鳥見に熱中のあまり知らずに巣まで接近してしまいノビタキの親、特にメスのクレーム鳴き？で批難ごうごうとなります。

人間さまの様々な「都合と事情」と言う名の下に「整備、開発、土地改良」等が行われ、それが一体どんなものか、しばらくここに通ううちに鳥たちにどんな影響を与え、環境が一変してしまうとこれだけの変化があるのだと小規模ですが、目の当たりにした様な気がします。しかし、日々ここに通う中でどこの鳥の生息地も同じだと思いますが、流石に鳥さんたちも野生動物、多少の環境変化や天候異変が起きようがたくましい彼らの繁殖・生存能力も見させて頂きました。嬉しいことに小鳥の雛たちは親と同じ姿形（当然ですが）をして今年もたくさん巣立っていきました（来年はどうなりますか、はてさて）。人の子も鳥の雛も動物の子供はすべて比類なき可愛さ。これはいつも実感しています。

また、愛護会の幹事の中のお一人の話では、数年前ここで植樹祭等の計画があり、同幹事に環境アセスメントの調査などで環境や生物などへの影響に関し意見を求めてきた経緯があったそうです。その前段として繁殖時期に草刈り作業などがあったようです。その幹事も仰っていましたが、おそらく同時期の草原のたくさんの鳥さんたちの巣や雛たちが犠牲になっただろうと推測されます。先日も草刈りが広範囲に実施されていました。（3日前間違いないそこにあったノビタキの巣はどうなったのだろう？）

わたしもホモサピエンスの一人として、過去の様々な開発や経済の高度成長に加担してきた事に（是非は別としても）対して反省しきりです。地球温暖化、環境問題、化石燃料枯渇とエネルギーなどなど問題は山積の時代をいかに乗り切るのか否か、実に不透明です。アメリカ元副大統領の A・ゴア氏は著書「不都合な真実」の中で「今地球上で起っていることを真撃に捉え共に英知を集め行動しましょう」と。また、先人は言いました、「過去は変えられないが、未来は変える事ができる」と。私たちにはいったい何ができるのか、何をしなければならないのかを真剣に考えるところまで来ていると思う今日この頃ですが…。

やはりこの緑地も、愛護会の探鳥地の一つである「東米里」と同じ轍を踏むのかも知れません。来年もまた、いつもの鳥たちが来てくれるでしょうか。ぜひ来てください！（私の独り言）

環境にやさしい開発とは何なんでしょう？ 開発は開発では？と思うのですが…。